令和７年度　教育研究推進計画

三次市立布野小学校

学校教育目標

「自信と安心」
自らとふるさとに誇りをもち、仲間とともに、夢や志に向けて主体的に活動する児童の育成

本校が育成を目指す資質・能力（布野っ子４大パワー）

各教科等において習得する知識や技能。（活用可能な概念化された知識や技能まで含む。）	想像的・批判的に思考し、自分の考えを構築する力。
自ら進んで粘り強く取り組み、学びに向かう力。	自己の成長を感じ、さらに挑戦する原動力。

１　研究主題

主体的・協働的に探究する児童の育成
～布野 style（問い・対話・振り返り）の授業づくりを通して～

２　主題設定の理由

昨年度は、布野 style（探究・対話・評価）の確立を目指し、教科における探究の可能性を研究してきた。１年間の研究を通して、試行錯誤しながらたどり着いた結果及び成果は、以下の通りである。

〈探究について〉

①布野っ子４大パワーの向上のみにとらわれず、教科固有の資質・能力を身に付けさせること
②実社会・実生活に基づいた内容を題材に学ぶことだけが探究ではないこと
③探究的に学ぶ児童の姿を定義づけ、教職員で共有すること

〈対話について〉

①トーキングタイムを月に１度行うことで、対話の楽しさや良さを実感する児童が 100%であったこと
②学級内では、授業中の対話が広がり、おたずねし合うことで教科の本質に迫ろうとする児童が増えたこと
③どの教科のどの単元でどんな思考ツールが使えるかを職員で交流したことで、授業の中での活用を広めることが出来たこと

〈評価について〉

①教科における「学びのジャンプアップシート」を考案し、モデルチェンジしながら活用したことで、児童が単元を通して身に付いた力を実感し、次の学びへと生かすことができたこと
②探究課題（単元を貫く問い）を児童とつくり、意識させることで、毎時間の学びの質が向上したこと
③指導者がルーブリックをもとに、意図的・積極的に形成的評価を行ったことで、学びの軌道修正を図る児童が見られたこと

一方、課題としては、

①探究の定義を職員で意識統一し試みていたが、「問いをもつ児童」にはまだ至っていないこと

②総合的な学習の時間と各教科とが繋がり合った探究のサイクルを行っていく必要があること

③単元の中でどこを「指導のための評価」にするのか、どこを「記録に残す評価」にするのか、指導者自身が各教科で身に付けたい力、本時で身に付けたい力のルーブリックをもっておく必要があること

④児童が学びを振り返る際に、ねらいに沿った振り返りを書いたり、児童自信が自分の理解度をメタ認知し自己調整したりできるように、振り返りの充実を行うこと

が挙げられる。

そこで本年度は、「問い・対話・振り返り」の３つの柱を基本とした教育スタイルを「布野 style」として授業づくりを行う。また、三次市研究指定校「コア・カリキュラム推進研究指定校」として、生活科と総合的な学習の時間における単元開発も行っていく。そして、各教科等と総合的な学習の時間で育成された資質・能力を往還させながら、主体的・協働的に探究する児童・生徒の育成を目指していく。

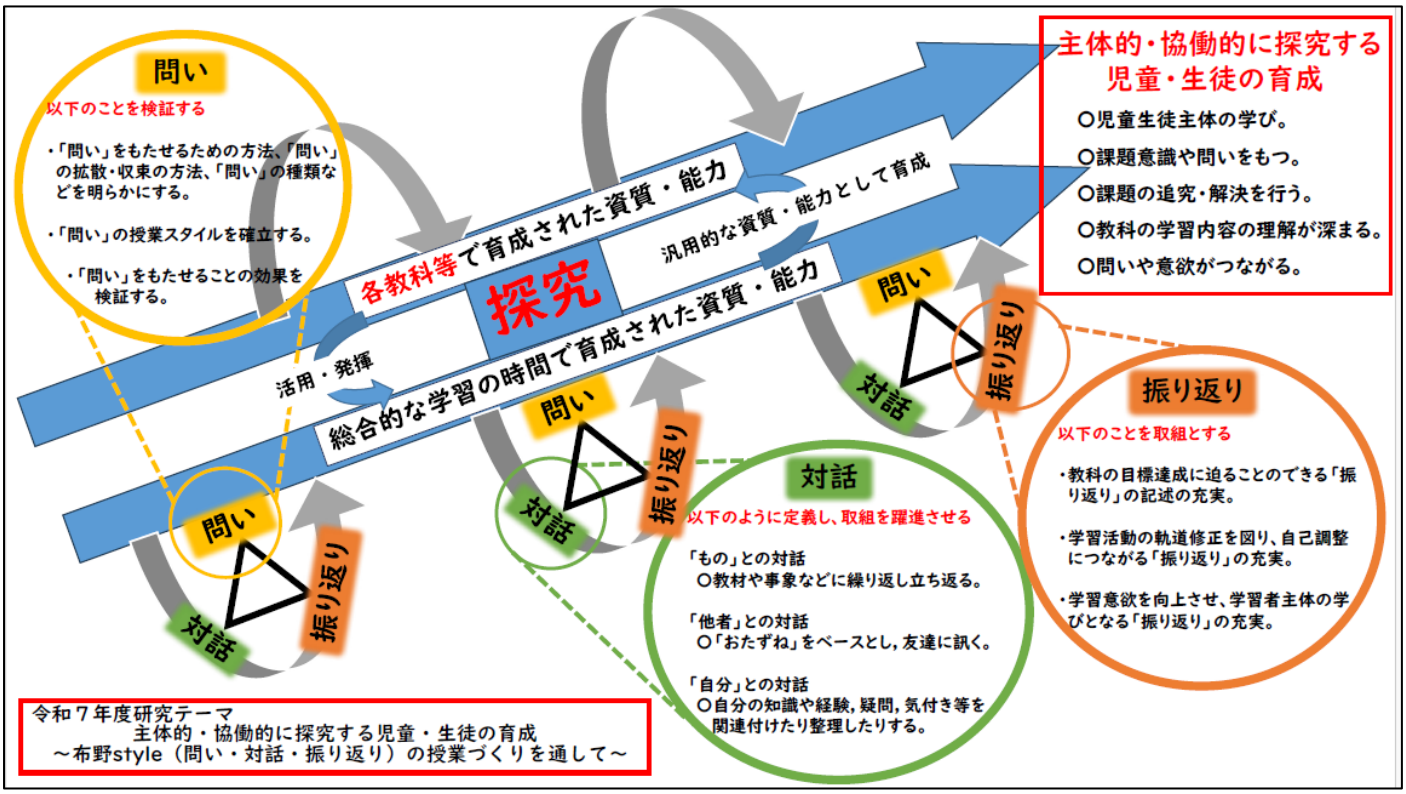
３　研究仮説

「問い」「対話」「振り返り」を軸に、探究的な授業づくりを行い、各教科等と総合的な学習の時間で育成された資質・能力を往還させることで、主体的・協働的に探究する児童を育成することができるであろう。

４　研究内容と具体的な取り組み

〈研究内容〉

研究仮説をもとに、布野 style の授業づくりを通して次の内容に取り組みながら、研究を推進する。



〈具体的な取り組み〉

（１）問い

「問いの授業づくり」を学期に１本を行い、実践を交流する。実践は「ダイヤモンド単元構想図」にまとめる。（後述）<u>価値が深まる「問い」を生み出せる児童を目指していく。</u>

問い

以下のことを検証する

- **児童に「問い」をもたせるための方法、児童の「問い」の拡散・収束の方法、「問い」の種類などを明らかにする。**
- **「問い」の授業スタイルを確立する。**
- **「問い」をもたせることの効果を検証する。**

（２）対話

① 話し合う力を促す「トーキングタイム」

・国語科（話すこと・聞くこと）の学習と関連させ、トーキングタイムを月に１度行う。

・話すこと・聞くことの領域における、次の目標を達成できるようにする。

○話題の設定，情報の収集，内容の検討

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第１学年
ア　身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア　目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア　目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。	ア　目的や場面に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。

小学校学習指導要領　国語編より抜粋

対話

以下のように定義し、取組を躍進させる

「もの」との対話

・教材や事象などに繰り返し立ち返る。

「他者」との対話

・「おたずね」をベースとし，友達に訊く。

「自分」との対話

・自分の知識や経験，疑問，気付き等を関連付けたり整理したりする。

トーキングタイムでは、下記の単元を活用し、１学期には<u>対話の技法（資料１）</u>を獲得する。２学期は、獲得した対話の技法を用いて話し合う。指導者は話し合いの様子を録音し、文字起こしを行う。その後、児童は文字起こしされた話し合いの様子を読み取り、客観的に話し合いの力を感じられるようにする。

	単元名	
	１学期（対話の練習）	２学期（話し合う）
１年	みんなにしらせよう	これはなんでしょう
２年	たいわのれんしゅう	そうだんにのってください
３年	こんな係がクラスにほしい	おすすめの一さつを決めよう
４年	あなたなら、どう言う	クラスみんなで決めるには
５年	どちらを選びますか	よりよい学校生活のために 意見が対立したときは
６年	いちばん大事なものは	みんなで楽しく過ごすために 伝えにくいことを伝える

（資料１）対話の技法の例

―1　「おたずね」に特化した対話の技法

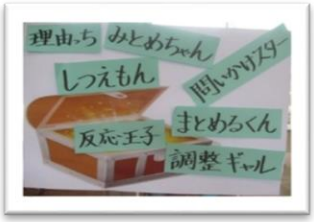
提案	「じゃぁ・・・」「・・・はどう？」
確認	「どういうこと？」「・・・って何？」
質問	「なんで？」「どうして・・・なの？」
発話の促し	「〇〇さんはどう？」「意見はある？」
反論	「でも・・・じゃない？」
言い換え	「それって・・・だよね？」

―2　更に深めるための対話の技法

理由付け	「だって・・・」「・・・だから」
受容	「そうだね」「わかるよ」
補足	「それに・・・」「しかも・・・」
整理	「ちょっとまとめるね」
逸脱の修正	「さっきの話だけど」「もとに戻そう」
相づち	「うん」「なるほどね」「たしかに」
ユーモア	（雰囲気を和ますユーモア）

これらのコツを使っていくことで、聴き手が育ち、話がつながり広がっていく。その結果、話し合いが進み、深まり、まとまっていくことで、話し手が育つ。

「話し合いの宝箱（対話の技法）」を子どもたちがネーミングしていくのもいいですね！



② 対話を深めるための思考ツールの活用

友達と対話を深め、よりよいものを考えていく中で、思考ツールを活用しながら話し合うことで、更に対話が深まり、新たな価値の創造に繋がる。学び合いの中で、自然と児童が思考ツールを選択・活用できる姿を目指していく。

そのために、小学校低学年段階では、様々な思考ツールを知ることが必要である。そして、高学年段階では、知識として得た思考ツールを、対話で必要だと思う場面で、最適な思考ツールを選択・活用していけるよう、指導を行っていく。

〈思考ツール活用の流れ〉

- 校内研修で、思考ツールをどの単元で何を使えばよいか検討する。
- 授業を通して思考ツールを活用し、児童は種類や使い方を知る。
- 授業で使った思考ツールは、クラスで掲示しておき、いつでも児童の目に触れることができるようにする。
- 知識として得た思考ツールを、対話で必要だと思う場面で、最適な思考ツールを選択・活用する。

（３）振り返り

①ダイヤモンド単元構想図の作成・活用

〇単元開始前

・「ダイヤモンド単元構想図」（資料２）を作り、授業づくりの見通しをもつ。

・単元のゴールで何を書かせるか明確にしておくために、Ａ・Ｂのルーブリックを作る。

振り返り

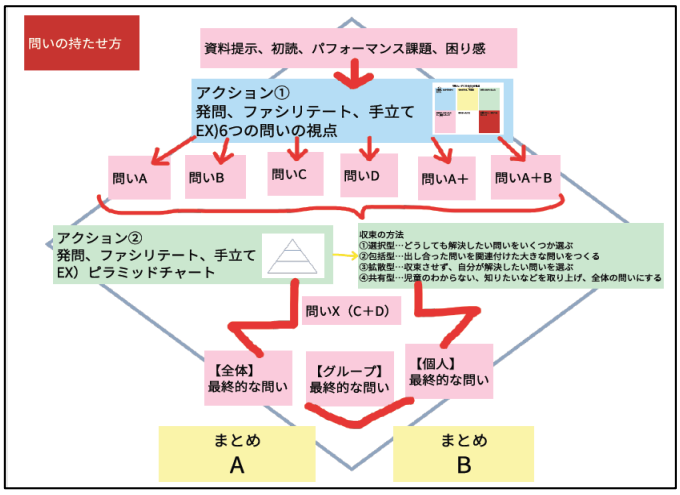
以下のことを取組とする

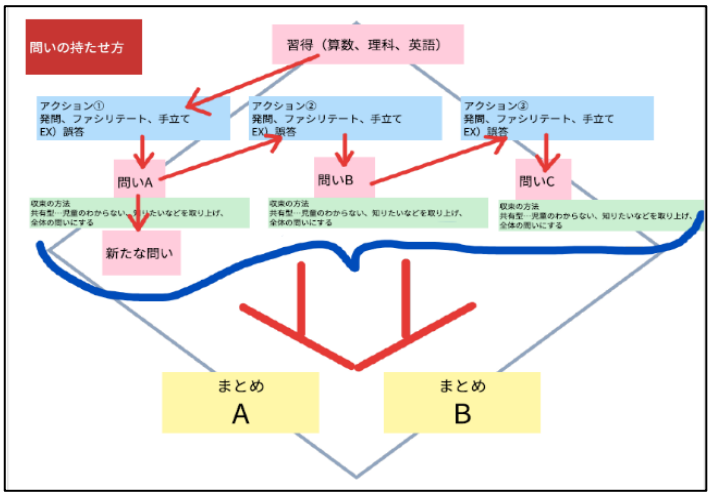
・教科の目標達成に迫ることのできる「振り返り」の記述の充実。

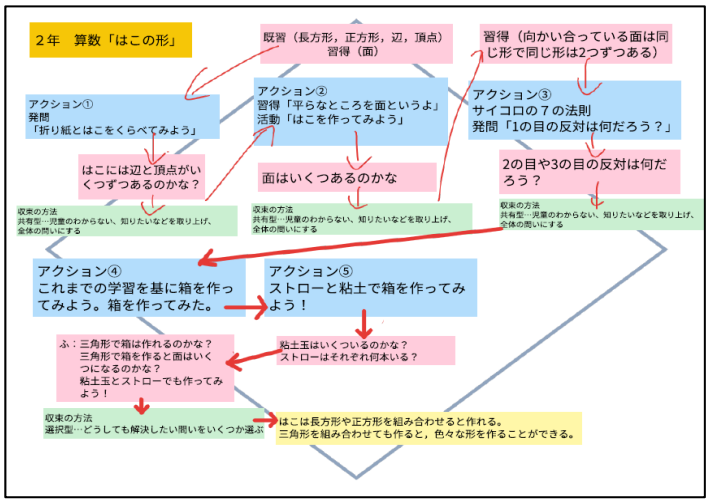
・学習活動の軌道修正を図り、自己調整につながる「振り返り」の充実。

・学習意欲を向上させ、学習者主体の学びとなる「振り返り」の充実。

（資料２）ダイヤモンド単元構想図







〇単元途中～事後

・授業中における、「児童から出た問い」と、問いの解決のための「指導者の手立て（アクション）」を記録し、単元の最後にまとめを書く。

②「ジャンプアップシート」の活用

〇各教科では、「学びのジャンプアップシート」を活用する。

・初めの考えを書くことができるようにして、学びの変容を自覚できるようする。さらに、次の学習に向けて学びたいことを書き、自己調整できるようにする。

・指導者は、意図的かつ積極的に形成的評価を行い、児童が学びの軌道修正を図ることができるようにする。

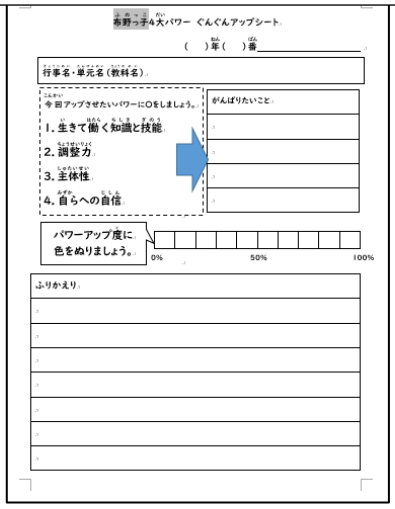
・指導者は、児童に学びのジャンプアップシートを書かせることで、授業のねらいが達成できているか見取るために活用する。

教科版「学びのジャンプアップシート」

○行事では、「４大パワージャンプアップシート」を活用する。

・４大パワー、ルーブリックをもとに、行事や単元前に、特に付けたい力を選択し、そのために頑張りたいことを記入させる。行事や単元の途中もしくは終了後、４大パワーを振り返らせる。指導者は、振り返りをもとに、児童に対して評価をし、次に繋がるようコメントを書く。振り返りシートは、その都度ファイルに閉じていき、ポートフォリオとして蓄積していく。

行事版「４大パワージャンプアップシート」



５　検証の指標と検証方法

検証の指標	検証方法	検証時期
児童・テスト結果	三次市学力到達度検査の「思考力・判断力・表現力」の内容において、３～６年生のすべての教科（16 教科）のうち市平均を上回る教科の割合を 80%以上（12 教科以上）にする。	１月　三次市学力到達度検査
	国語科単元テストにおける「話すこと・聞くこと」の学級平均の割合を８５％以上にする。	学期終わり
児童・アンケート	４大パワーがついたと実感する児童の割合 85%以上	４月 ７月 11 月 ３月

６　研究推進の方向・具体的な方策

（１）理論研修（４月～５月）
・研究主題、布野 style の在り方について理論研修を行い、全指導者が共通認識をもって取り組む。

（２）授業研究の実施（６月～１月）
・１学年１回、研究内容の視点に沿った模擬授業・授業研究を行い、実践からの学びを全員で確認し取り組むことで、指導力の向上を図る。
・学期に１回、ダイヤモンド単元構想図を作成し、実践、交流をする。

（３）小中連携（月１回程度）
・研究主任が集まり、双方の研究の情報交流等を行う。時には授業参観を行う。

（４）研究のまとめと次年度の研究推進の計画立案（２月～３月）
・検証の指標に沿って分析し、次年度に向けての方向性を確認する。